

# 稽留流産子宮内容除去術後の 仮性動脈瘤に対してのTAE

那須赤十字病院 放射線科  
藤塚 進司

## 症 例

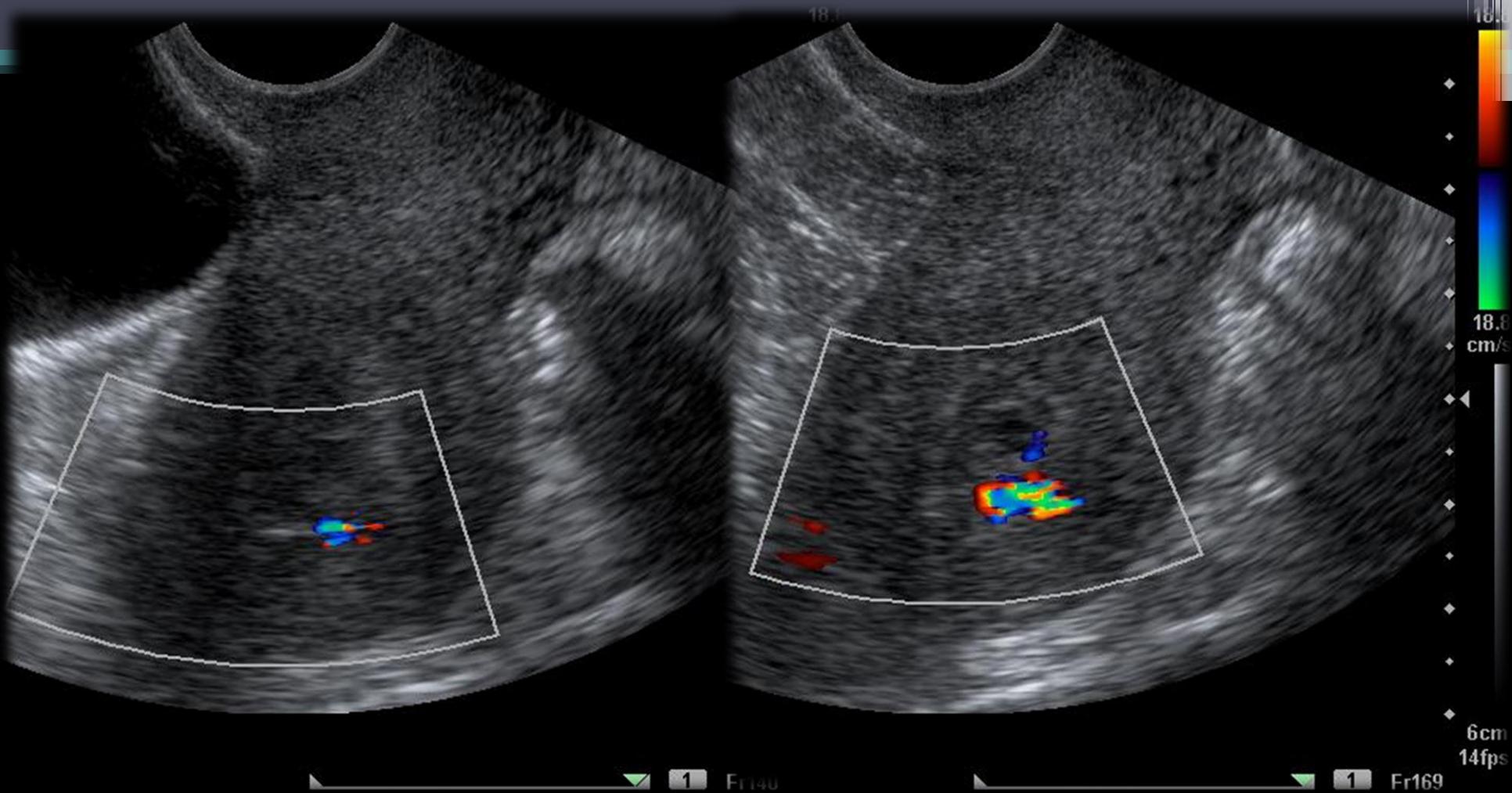
- 30歳台 女性
- 主 訴：多量性器出血
- 既往歴：特になし 2経妊 1経産  
1ヶ月前に稽留流産で子宮内容除去術  
施行 (1週間後の診察で異常なし)
- 内服薬：特になし
- Vital Sign：36.4℃ 62bpm 118/39mmhg

## 経過

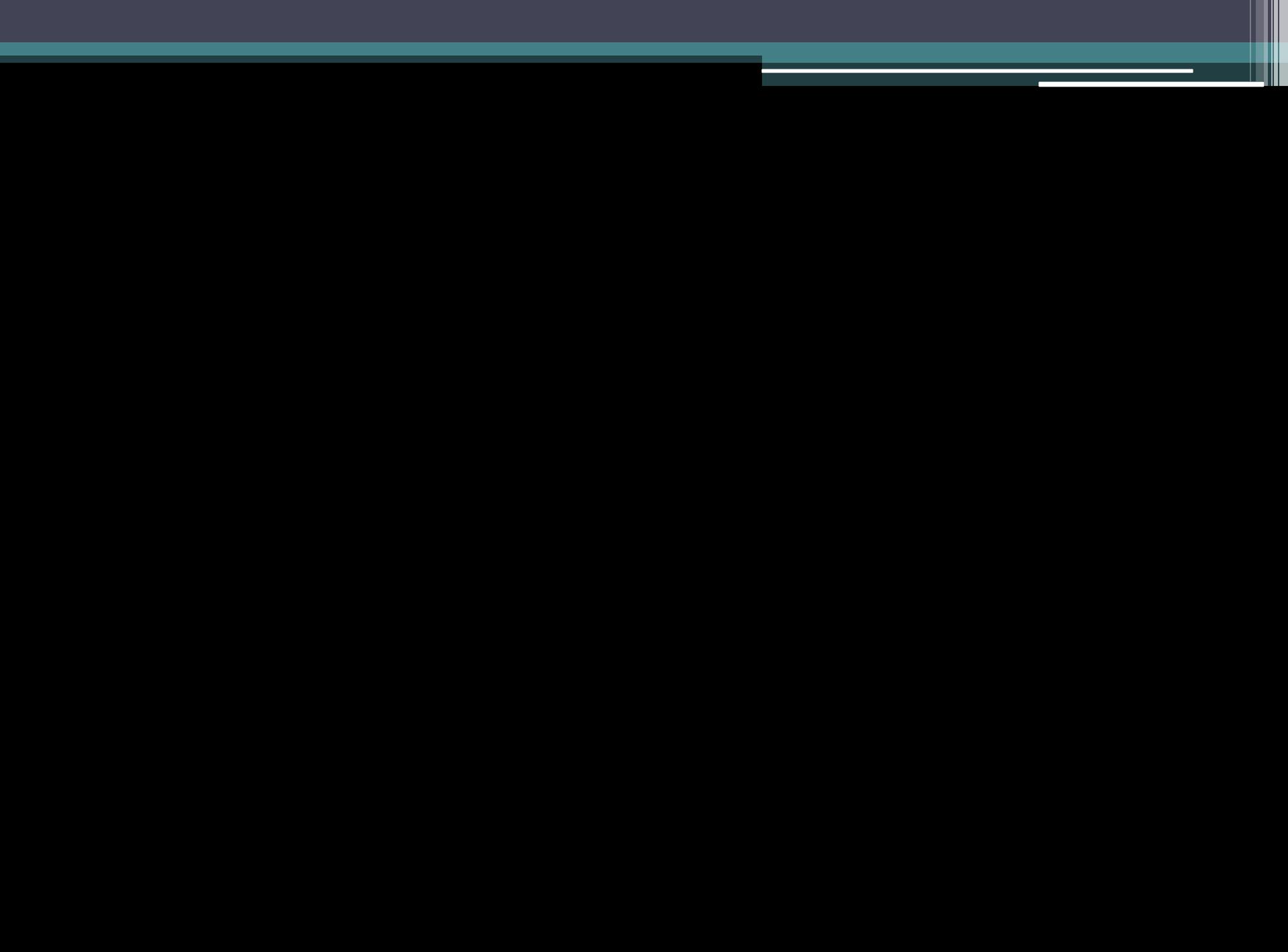
- 性器出血が間欠的に出現、徐々に増加。
- 5日後 散歩中に大量出血、前医で鮮紅色の性器出血認め、仮性動脈瘤疑いで当院救急搬送。
- クスコ診：持続出血なし

	来院時
WBC	7 2 0 0
Hb(g/dl)	1 2 . 4
Plt( $\times 10^4$ )	2 1 . 7
INR	1 . 1

**TVUS**



内腔に液体貯留  
底部後壁にカラードップラーで拍動性の結節

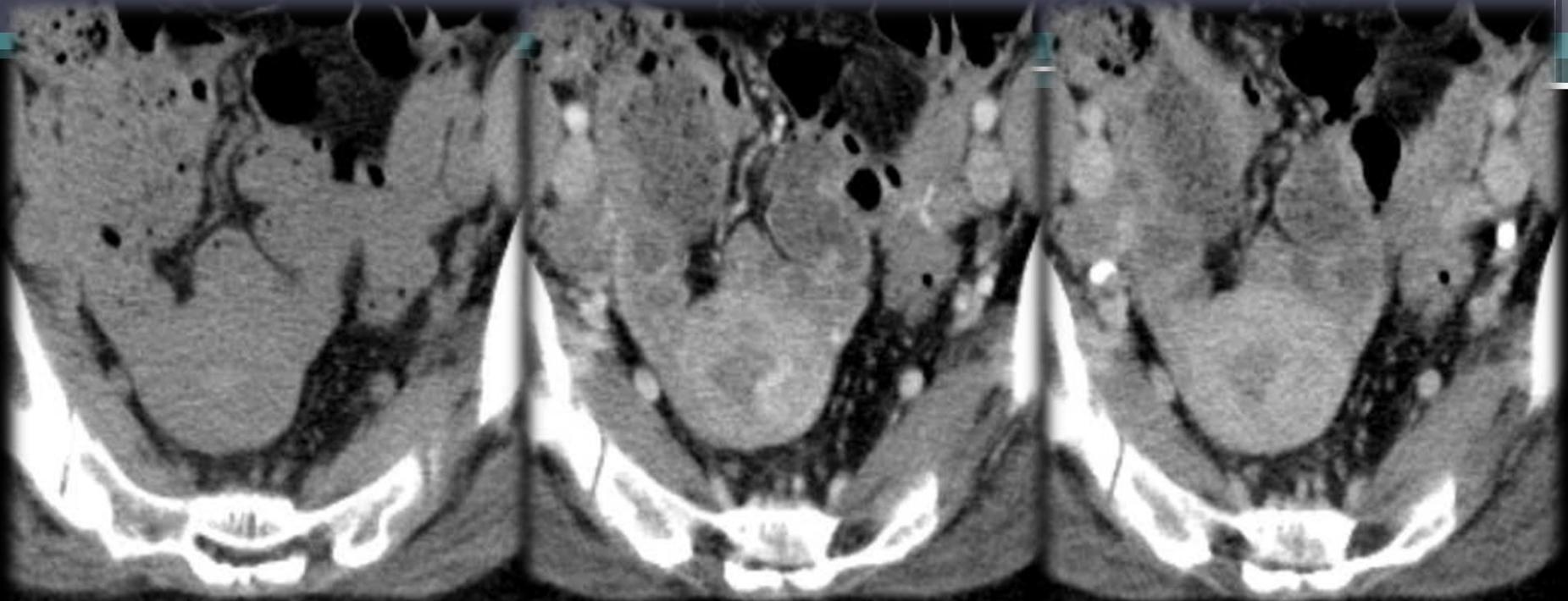


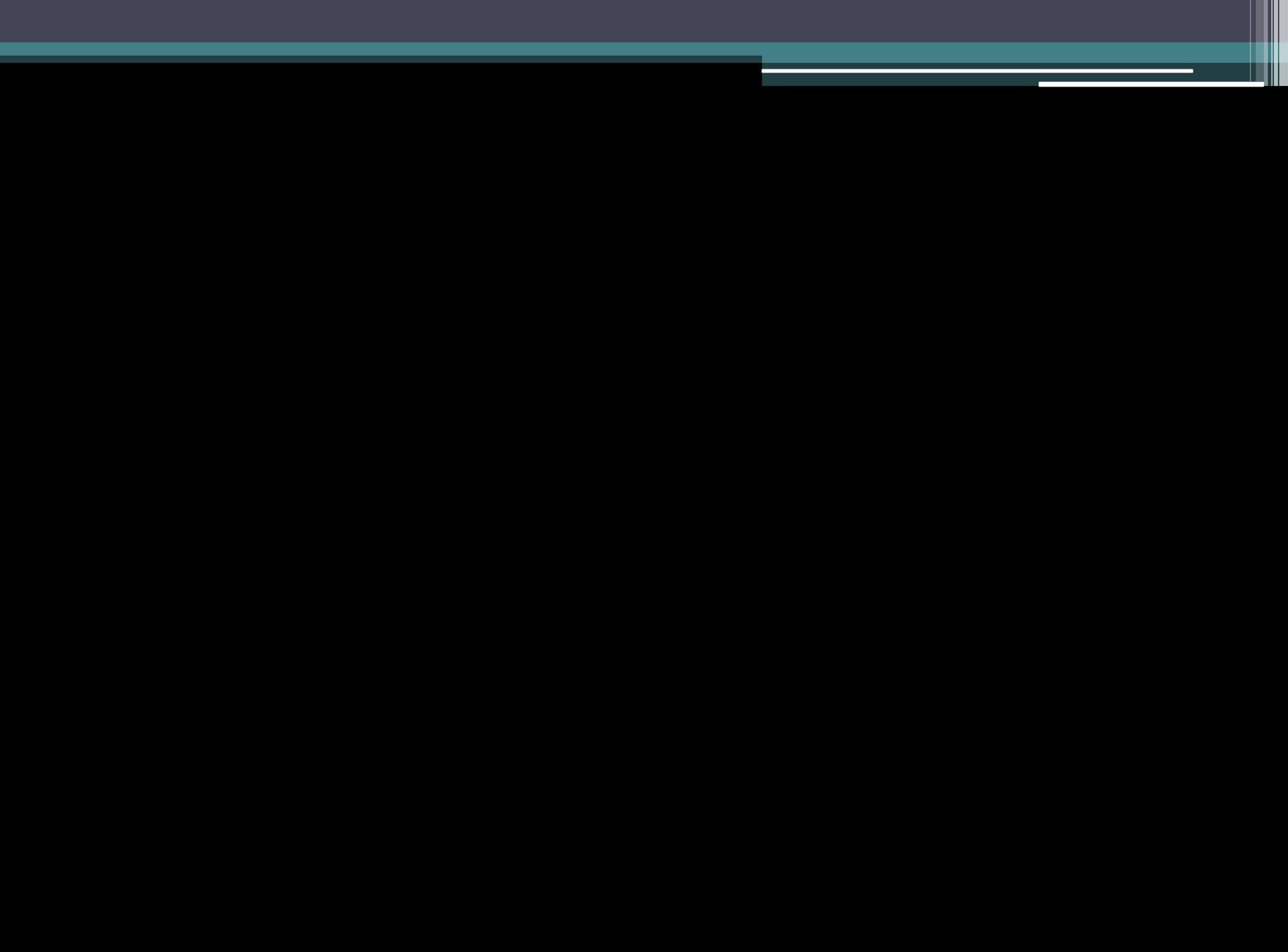
# Dynamic CT

非造影

動脈相

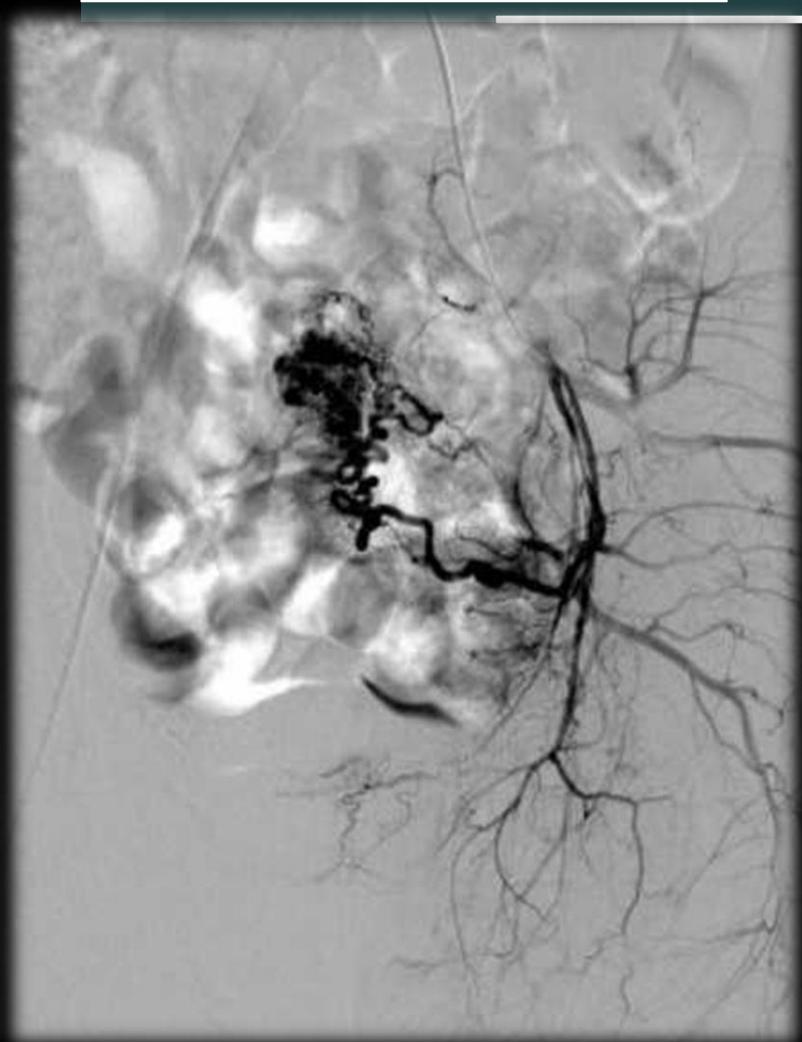
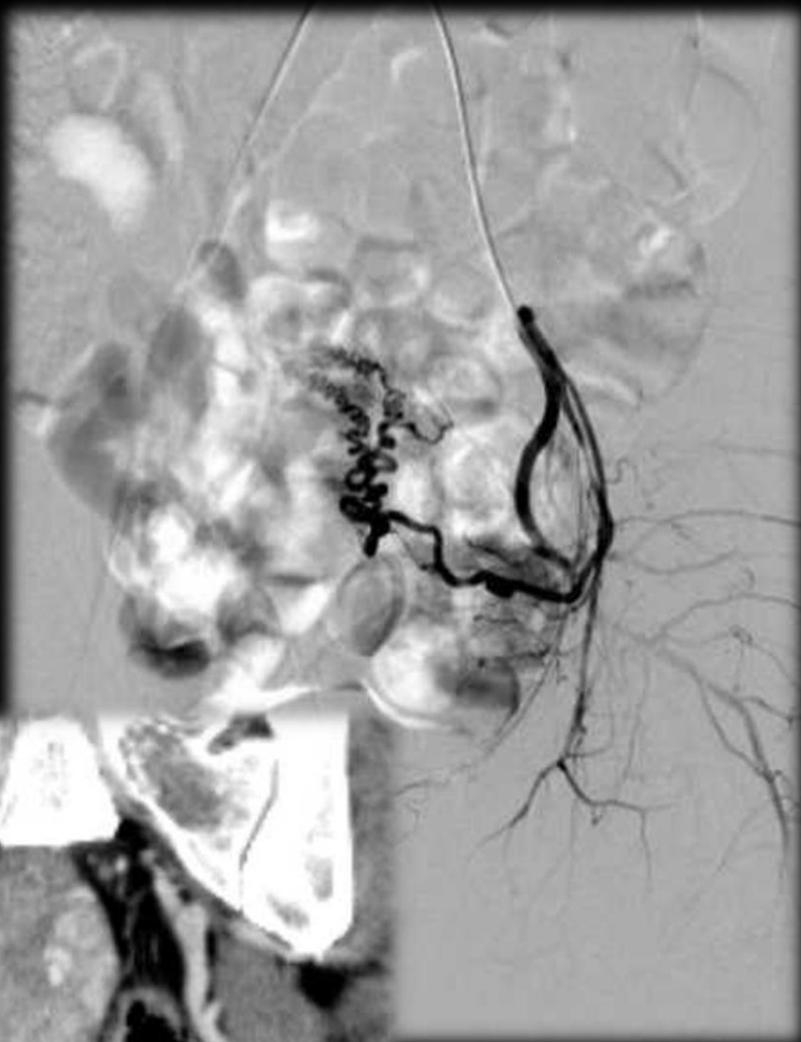
後期相



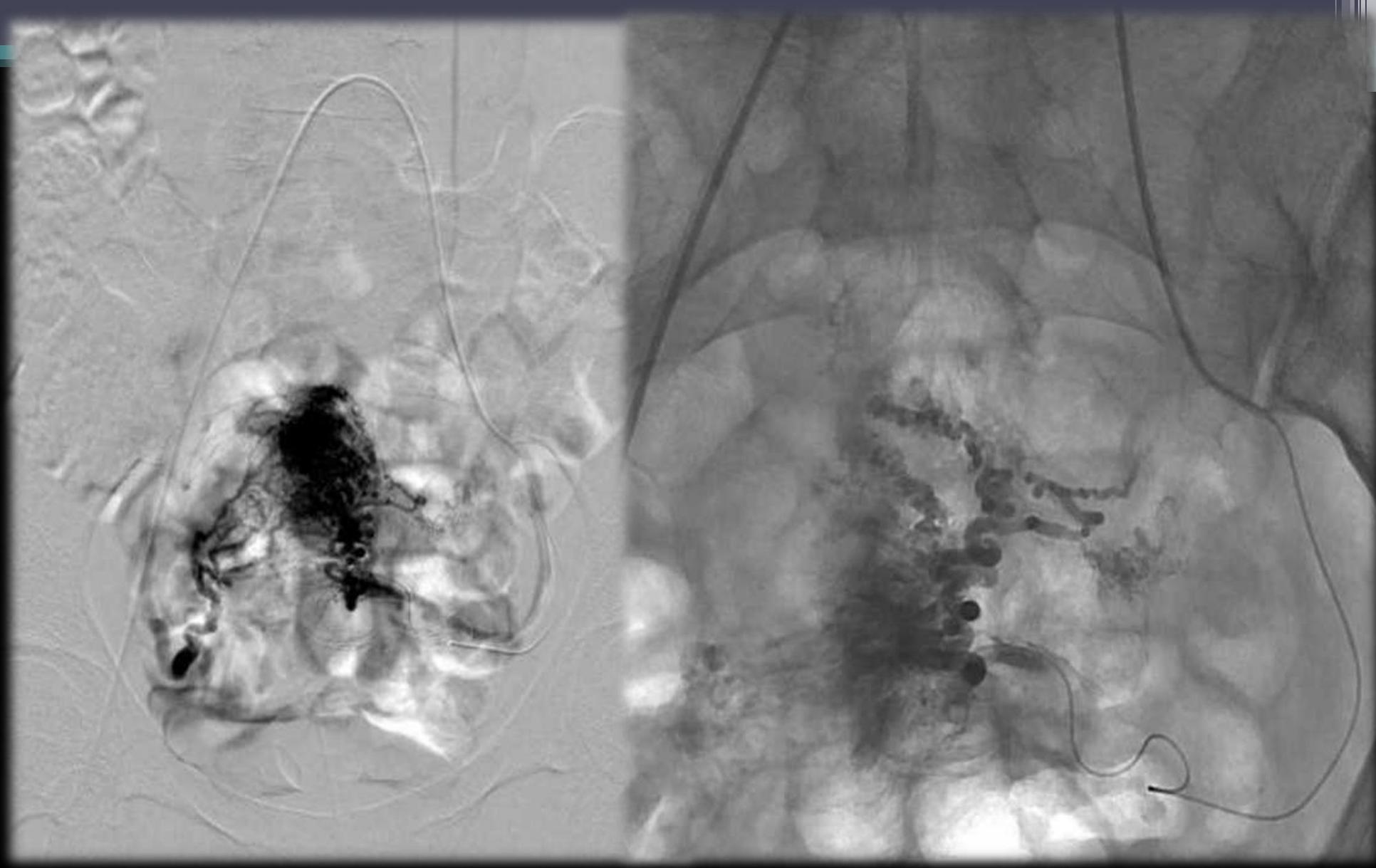


# TAE

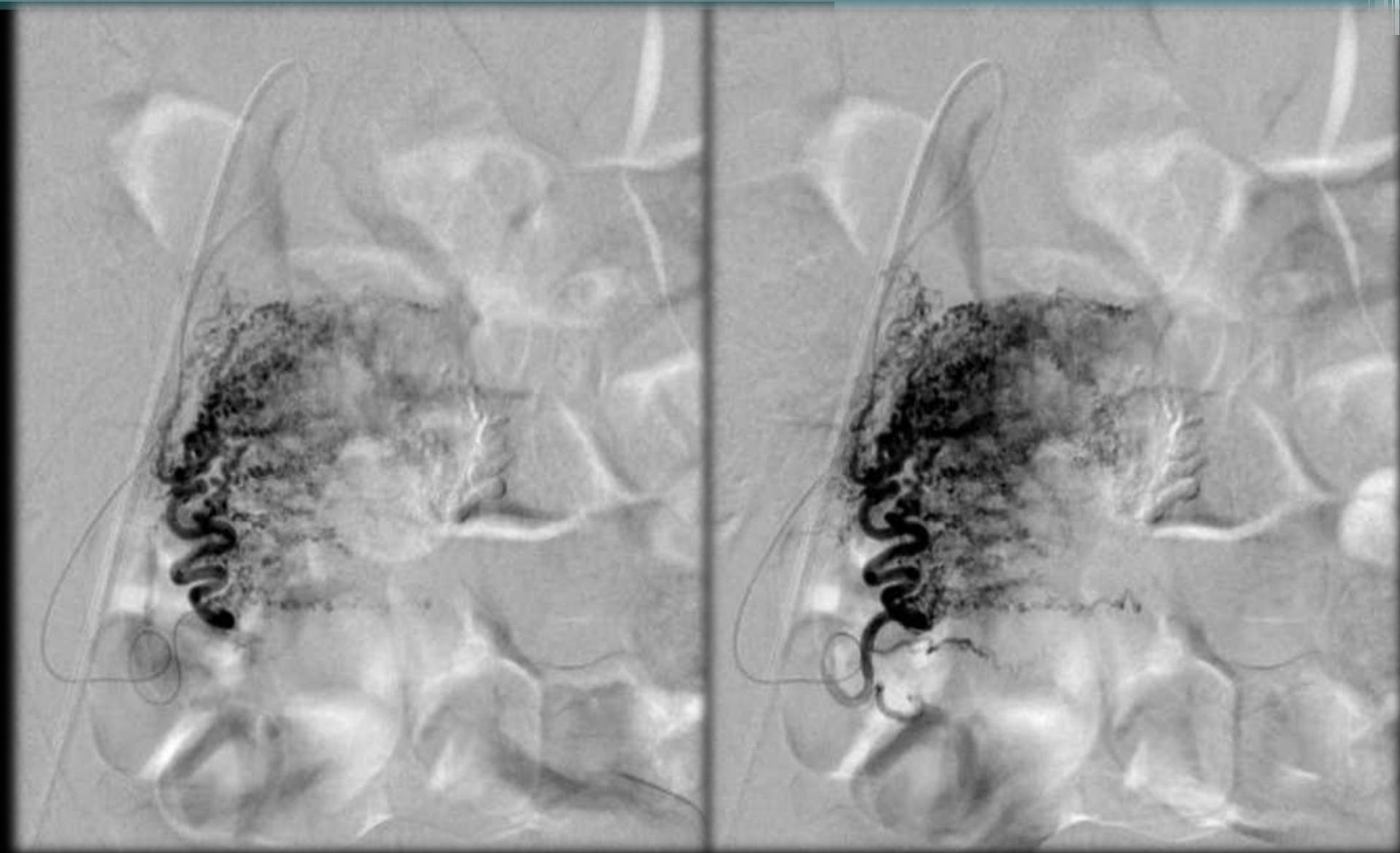
5. 5Fr 25cmロングシース  
4Fr C2カテーテル  
タンジェント



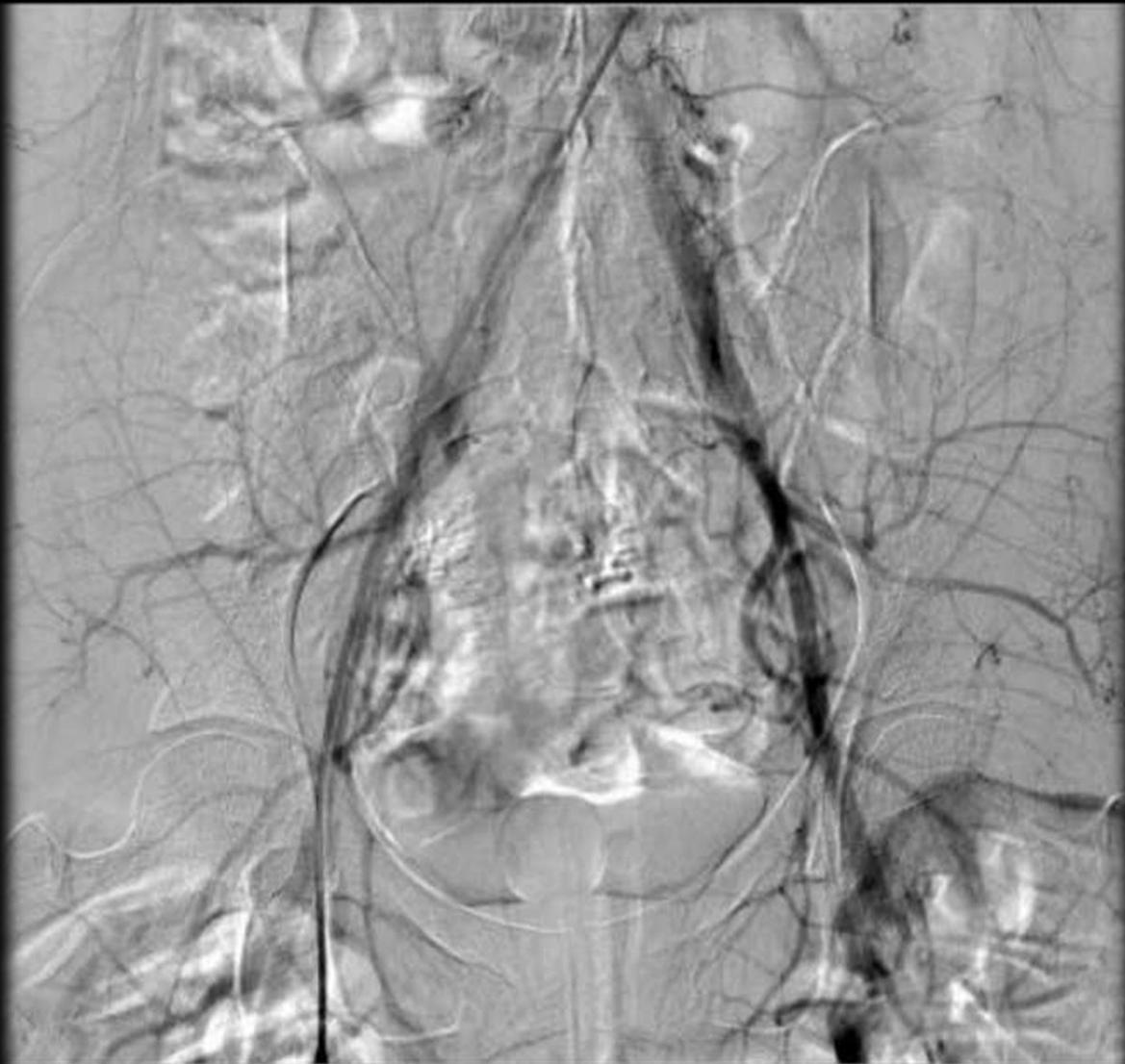
異常血管の描出あり



左子宮動脈をゼラチンスポンジ1枚分をもって塞栓



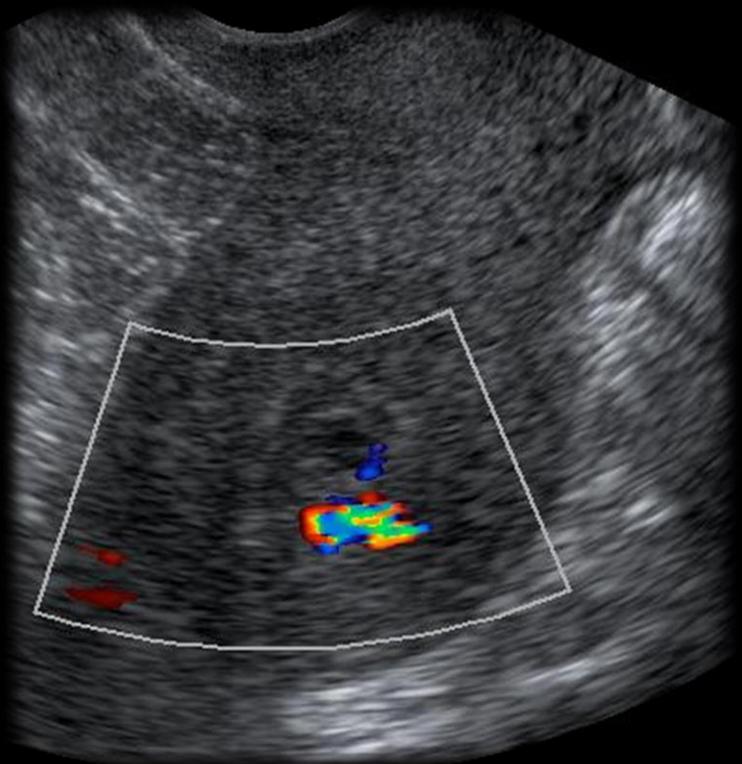
右子宮動脈をゼラチンスポンジ1枚分をもって塞栓



ゼラチンスポンジ  
2枚使用  
バイタル変化なし

6日後US

初診時



コアグラ?のみ  
カラードップラーで血流なし



子宮鏡所見：  
底部から頸管に伸びる暗  
赤色のポリープ  
萎縮して変性している

⇒退院へ

## 考 察

- 子宮の仮性動脈瘤は、帝王切開後、筋腫核出後、分娩後など2次的に発生する。
- 子宮内容除去術後では遺残胎盤との判別が困難。

⇒造影DynamicMRIが有効であった可能性

# 考 察

- 仮性動脈瘤

TAE or 子宮摘出

- 遺残胎盤

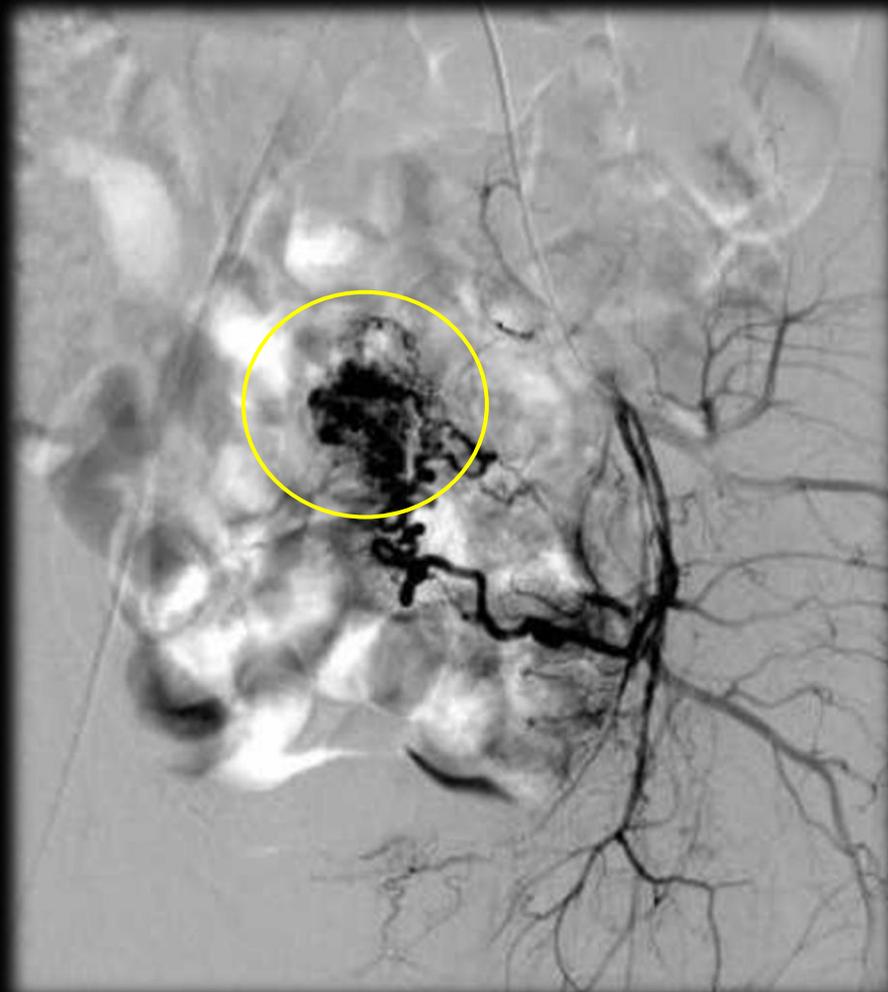
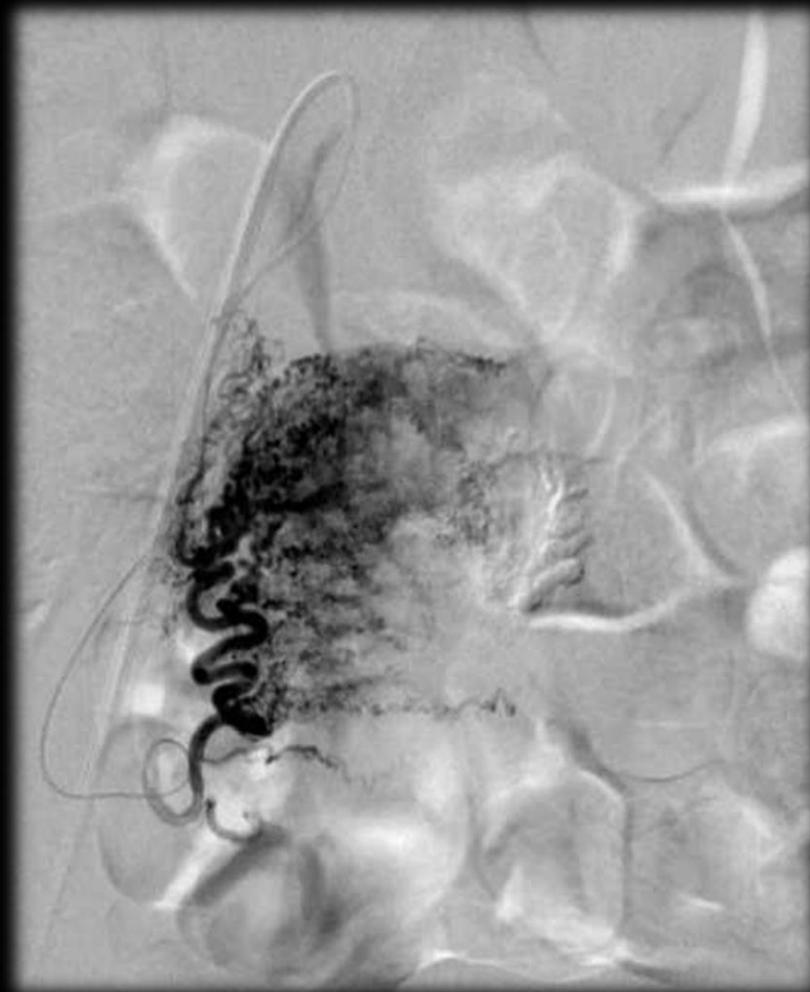
TAE、子宮内容除去、子宮内タンポナーデ、

メソトレキセート投与

TAEの遺残胎盤止血率は95%。

## 考 察

- いずれにせよTAEで治療可能
- 出血時には診断にこだわらず、止血を優先して行い、止血後に子宮鏡などを用いて遺残物を確認する。
- UAEによる妊孕性の影響は未だ不明。



## 結 論

- 子宮内容除去術後の仮性動脈瘤に対してTAEを施行した。
- バイタル安定時には造影DynamicMRIが望ましい
- 子宮鏡による診断も有用と思われた。